

「こおりやまの米」通信



郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

平成24年3月1日

編集:郡山市 JA 郡山市 (Tel. 921-0724)
NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)
県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

発行:郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市営農推進課 Tel. 924-3761)

Vol. 1 播種準備編(床土の準備~出芽) 次回は3月下旬(育苗後半~田植編)

天気予報 (仙台管区气象台発表 2月23日付け、3か月予報から)

時期	天 気	気 温
3月	天気は数日の周期で変わります。東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	平年並または高い確率ともに40%
4月	天気は数日の周期で変わります。東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	平年並または高い確率ともに40%
5月	天気は数日の周期で変わります。	平年並または高い確率ともに40%



今年の 育苗のポイント

- ① 浸種は発芽をそろえるため十分吸収させる。
- ② 催芽や育苗の温度は28℃を上限にする。
- ③ 購入、自家採種にかかわらず必ず塩水選をする。
- ④ 籾枯細菌病予防の種子消毒をする。
- ⑤ 薄播きで健苗育成を。

詳しくは、本文をご覧ください。

床土の準備

良い床土の条件は、①pHが4.5~5.5である、②排水性、保水性、通気性が良い、③細かい粒子があまり多くないことです。各種資材で調整してください。粘土の強い床土は排水には注意してください

- 1 ピートモスで物理性、保水性が改善できます。また、床土の量に対して30%程度混和するとpHが1下がります。
- 2 pHミックスは、200~300g/箱でpHが1程度下がります。
- 3 施肥は育苗箱1箱当たり、チッソ2g、リン酸3g、カリ2gとします。

1箱当たりの施肥量

肥料	例1:単肥施肥			例2:稚苗用液肥源	例3:育苗箱専用	薬 剤 (苗立枯病、ムレ苗防止)
	硫安	過石	硫酸カ	(15-19-15)	(4-8-5)	
施肥量	10g	15g	4g	12~15g	40~50g	好カレース粉剤 8g/箱

※単肥施肥の場合、pHが0.5程度下がるので注意する。



種子の準備

1 わら、もみがらの除去

昨年のもみ、わらには、いもち菌が越冬している可能性があります。種子をあつかう前に作業場やハウス等のわら、もみがらを除去しましょう。

2 塩水選(比重選)

塩水選は、発芽力の高く、病気にかかっていない種子を選ぶために必要です。塩水選後は軽く水洗いして塩分を除きます。

3 種子消毒(例)

使用する種子等	作 業 手 順	備 考
消毒済み種子をそのまま使用する場合	塩水選⇒水洗い⇒浸種	◎もみ枯細菌病防除の基本は28℃以下の温度管理です。
消毒済み種子でもみ枯細菌病の防除を行う場合	塩水選⇒水洗い⇒スターナ水和剤(0.5%湿粉衣)⇒風乾(4日間以上)⇒浸種	◎テクリードC707は消毒済み種子には使用しないで下さい。(化学反応がおき効果が落ちる)
未消毒種子を使用する場合	塩水選⇒水洗い⇒テクリードC707(200倍液24時間浸漬)⇒風乾せず浸種	◎浸漬消毒の場合、籾と処理薬液の容量比は1:1以上として下さい。

塩水の作り方(水10%当たり)

種 類	比 重	99%の食塩(kg)	21%の硫安(kg)
うるち	1.13	2.1	2.7
もち	1.10	1.6	2.0

浸種 発芽を揃えるために、十分に吸水させること、酸素を十分与えること、が大切です。

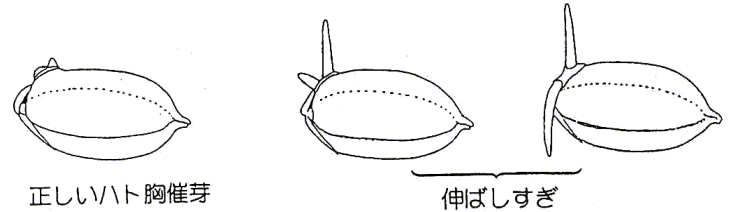
- 1 **浸種水温**は、高すぎても低すぎても、吸水にバラつきが出て発芽の揃いが悪くなります。水温は**12～15℃**を目安とします。
- 2 **浸種期間**は積算水温（水温×日数）で120～150℃を目安としています。水温12℃の場合12日程度、15℃の場合10日程度とします。
- 3 ネット袋は余裕をもって、種子を八分目以下に詰めます。**袋には品種名の札をつけ、間違いを防ぎます。**
- 4 酸素不足を防ぐため、大きい容器を用い、水は種子量の2倍以上にします。もみ袋を積み重ねている場合は、上下を時々入れかえます。
- 5 薬剤が流れないように、始めの3日間は水を交換せず、その後は2日間隔で交換します。

催芽

播種前にハト胸の状態まで均一に催芽（芽出し）をします。

育苗器や催芽器の温度設定は、28℃にします。
（30℃以上はもみ枯細菌病の危険がある）。

育苗器内ではもみ袋は薄く広げます。
 温度計を併用しながら、温度を管理しましょう。



播種 「健苗育成は薄播きから！」

薄まきは箱数が必要ですが、茎や根が太く、活着も早く、初期生育が良くなります。

1 **播種量と育苗日数の目安**

苗種	播種量 (乾籾重/箱)	育苗日数	葉 齢	備 考
稚苗	150g	20～25日	2.2～2.5	催芽もみは、乾もみの1.25～1.3倍重になります。
中苗	100g	30～35日	3.0～3.9	

厚播きにすると・・・

【育苗期】	【移植以降】
① 苗が徒長、老化する。	① 活着が悪く分けつが遅れる。
② 茎、根が細くなる。	② 根が細く根張りが悪い。
③ 葉齢が停滞する。	③ 開帳せずズンドウ型のイネになる。

2 **薬剤防除（例）（1箱当たり）**

人工培土は焼土殺菌してありますが、外部から菌が侵入すると一気に広がる危険性が高いので、下記を参考に予防してください。

例1	【播種前床土混和】 タチガレエース粉剤 6～8g（1回まで）	+	【播種時かん注】 ダコニール1000 500倍液0.5%（1回まで）
例2	【播種時かん注】 ダコニール1000 500倍液0.5%（1回まで）	+	【発芽後かん注】 タチガレエース液剤 500倍液0.5%（1回まで）

出芽 「苗焼けには十分注意を！」

- 1 **育苗器を利用する場合** 「温度計を併用しながら、育苗器内の温度管理をすること」
 温度は28℃とします。（30℃以上ではもみ枯細菌病が発生しやすくなります。）芽は1cm以上伸ばさないでください。 **品種を間違えないよう、苗箱出し入れの際に名札等をつけましょう。**

2 **平置き出芽法** 「高温に注意」

- ① 被覆資材の特徴を理解して使いましょう。

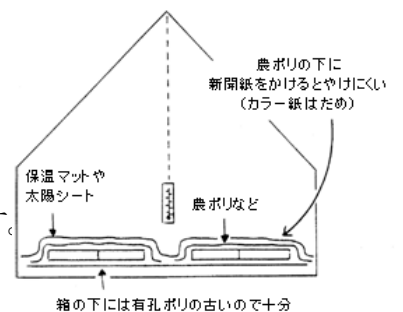
白色マット—昼間の温度が上がりすぎ苗が焼ける場合があります。低温年は管理しやすい。「保温マット」等。

銀色のシート—温度が上がりにくく、低温時は出芽が長くかかります。

高温年は管理しやすい。「太陽シート」等。

灰色のシートや灰色+白色のシート—白色と銀色の中間の性質。「シルバーラブ」（シルバーポリ+ラブシート）等。

- ② 白色マットなど透過性の良い資材は、**新聞紙を間にかけるとヤケ防止**になります。
- ③ **苗箱付近の温度が30℃以上にならないように換気を行います。**
- ④ シートの端には重りをのせて、風でめくれないように気をつけてください。



催芽からハウス管理まで、温度に注意して、もみ枯細菌病などを出さないようにしましょう

農薬は登録内容（使用方法）を確認しながら使用しましょう

この資料は、平成24年2月23日現在の
 農薬登録情報に基づいて作成しています